

チャンク音読の流れ

2014年5月19日（月）ミント音声教育研究所 田淵龍二

チャンク音読は、従来の読解授業に埋め込む形で行うことができる。ここで取り上げた読解授業は、1駒90分授業で300単語程度の分量を持つテキストを課題とし、それをいくつかのユニット毎に区分して、語彙説明、文法確認、文理解、質疑応答、一斉音読、指名音読などを組み合わせながら進める授業法であり、中高をはじめ大学でも一般に行われているリーディング授業である。こうしたリーディング授業のうちの音読部分をチャンク音読に切り替える。

資料：サンプルサイト「オバマ大統領 就任演説」 <http://homepage2.nifty.com/mint-ap/masterpiece/player/obm-20090120.html>

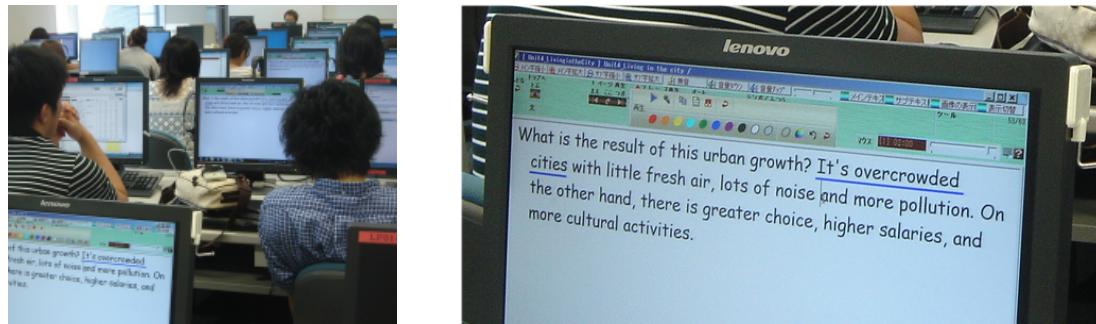


図1. チャンク一斉音読中のクラス風景（左）とモニター画面

音読中のフレーズがアンダーラインで強調表示される。生徒はモニターのテキストを見ながら模範音声にあわせて唱和する。教師は生徒の声を聞きながら、次に進むか、同じフレーズをもう一度繰り返すかを判断する。

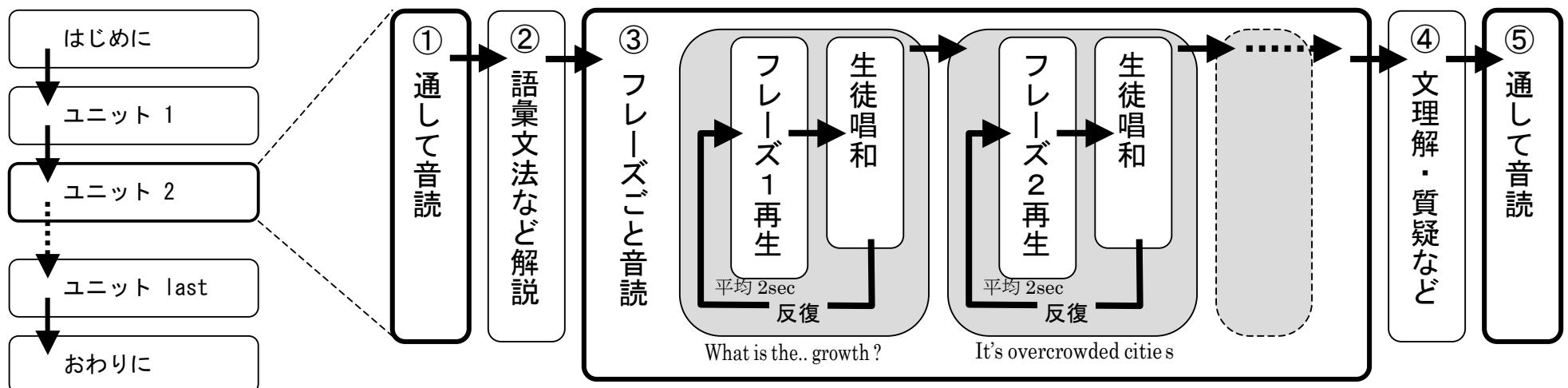


図2. 90分授業の進行概念図

図3. ひとつのユニットの進行概念図 / 2秒前後のネイティブ音声によるチャンク反復音読が特徴